

一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

日時	平成26年8月20日（水） 13:30～15:30		
場所	上野原市文化ホール「もみじホール」		
出席者	109名		
	（内訳）PTA関係者	104名	
	市町村教育委員会関係者	5名	
	一般	0名	

1 登下校の安全管理対策について

（質問・意見）

- ・上野原西中では、PTA会長の発案で、今年の大雪を教訓にして、保護者と学校が協力して、スムーズに除雪作業ができるように、除雪マニュアルを作成した。
- ・子どもたちが安全に登下校できるようにするための大雪への対策を県ではどのように考えているか。

スポーツ健康課長

- ・今年の大雪では大変な混乱があり、各学校、先生方、保護者の皆さんがたいへんな苦勞をされて、通学路の確保に取り組んでいただけたと伺っている。
- ・雪の影響でグラウンドが使えなくなるなど様々な影響が出たところ。
- ・まず道路の状況については、幹線道路の確保というところから作業が始まっていく。
- ・今回、実際に様々な取り組みを各市町村において行われており、県としては、今それぞれの市町村の教育委員会の担当者から意見や取り組んだ内容等を整理しているところ。
- ・秋には市町村の通学路の安全担当を集めて会議をしたいと考えている。
- ・その席上で、それぞれがどのように取り組んだか情報交換しながら、今後の取り組みについて検討する作業を進めていきたい。

2 県の施策の周知について

（質問・意見）

- ・親にとっての関心事は、子どもが安全に学校に通うことと、友達を大切にして、友達からも大切にしてもらうこと、欲を言えば、勉強で分からなかったことが少しでも理解できるようになること。
- ・山梨県教育委員会で防災教育や豊かな心の育成、確かな学力の向上に力を入れていることを知って、安心すると同時にありがたく思っている。
- ・子育ては親がしなければいけないが、どうしても学校や先生方にお任せすることが多いのが今の現実。
- ・子どもをきちんと叱ること、照れないで誉めてやること、そんな子どもの子育てに不安を感じることもある。
- ・山梨県教育委員会では、家庭・地域の教育力の向上に向けて、いろいろな事業を実施していることを本日知ることができて、うれしく思う。
- ・子育てに自信を持つためには親も学ぶことが必要だということが本日分かった。
- ・新やまなしの教育振興プランという教育に関わる計画が作られていることを知ることができたのも本日の一つの成果。

- ・もっと多くの方々に山梨の教育に関わる事情を知ってもらいたい。

司会 総務課総括課長補佐

- ・県ではこの一日教育委員会という形で年間2回、地域の皆様とお話しをさせていただいている。
- ・その他、ホームページやあらゆる方法で県の施策については皆様にお伝えするようにしている。
- ・今後なお一層お伝えできるよう取り組んでいきたい。

3 子どもの学力低下への対策について

(質問・意見)

- ・今年の定例県議会での知事の説明に、本県小中学校の児童生徒の学力が全国の平均を下回る結果が多かったという話があった。
- ・そのとき知事からは、市町村と連携し、放課後等を活用した児童生徒への補習的な学習支援を行うという説明があった。
- ・先ほどの説明に、放課後を使った「地域子ども教室」という話があったが、具体的にどのようなことをやっているのか、また、どの地域でやっているのか、具体的な内容を教えてもらいたい。

義務教育課長

- ・学力に関する知事のお話は、いわゆる全国学力・学習状況調査の結果について。
- ・この全国学力・学習状況調査は、毎年4月、小学6年生、中学3年生を対象に、教科は小学生が国語と算数、中学生が国語と数学で行っている。
- ・今年度の結果はまだ出ていないので、昨年度の結果だが、それによると、中学校の国語に関しては、全国平均以上だが、それ以外のものは全国平均に届いていないので、学力の向上が必要ではないかということが言われている。
- ・そのような中で、県教育委員会も子どもたちの学力を上げることは喫緊の最重要課題と捉えており、様々な事業を行っている。
- ・そのうちのひとつが、各地区で補習的な学習をしていく、「学力向上フォローアップ事業」で、今年からスタートしている。
- ・今年甲州市・富士川町・南部町・都留市の4つの市町村を指定して、放課後、土曜日、夏休み等を使って、会場をいくつか設置し、そこに希望する子どもたちに来てもらい、退職した教員や教員志望の学生等を活用して、補習的な学習をしていくというもの。
- ・このようにして、できるだけ子どもたちの基礎的な力を上げて行きたいと考えている。
- ・今後の展開としては、来年度も同様にいくつかの市町村を指定し、徐々に県内に広めていきたいと考えている。

(保護者)

- ・できるだけ多くの地域で、毎年やっていただけるよう望む。

義務教育課長

- ・県でも考えて行きたい。

(質問・意見)

- ・山梨県の学力がやはり他の都県に比べてかなり低いことを心配している。
- ・放課後の時間等で学力の底上げを図っているという努力は大変頼もしく、大いに期待し

ているが、まだ弱いのではないか。

- ・私は東京都内で高等教育機関の教員をやっているが、その中で山梨県から来た学生は特に応用的な課題に対し解決する能力が低い、つまり学ぶ力が弱いと感じる。
- ・基礎が大事なので補習的な学習も大事だが、トップクラスの児童生徒をさらに伸ばしていくことも大事。
- ・そういったことに対する取り組みがあれば聞かせてもらいたい。

義務教育課長

- ・基礎的なところを固めるとともに、応用力が子どもたちに必要だとされているので、そちらの力も伸ばしていくということも必要。
- ・実際に一番大事なのは、各学校でそれぞれの学校の授業を如何に改善して、更に子どもたちに基礎的な力と共に応用的な力を付けていくかということであり、今一番大きなテーマとして取り組んでいる。
- ・今行われている各種の調査の結果を詳細に分析して、各学校で一人一人の子どもたちに対応できるような対応策を考え、それを実行に移していくことを、県を挙げて取り組んでいる最中。
- ・これから一生懸命努力していく。

(質問・意見)

- ・実際に現場の先生方を拝見させていただくと、先生たちにゆとりがないということを非常に感じる。
- ・そのような中で学力を付けるためには、やはり先生方をサポートするようなシステムもあった方がよいのではないか。
- ・この近くには都留文科大学という教員を養成する機関もあるので、タイアップしながら、お互いに無理のないようにしていけたら、素晴らしい教育環境が作れるのではないのか。

義務教育課長

- ・過日のOECDの国際調査でも、山梨県に限らず日本の教職員の超過勤務時間の多さが話題になった。
- ・これについては非常に大きな課題で、いろいろなところで、いろいろな方策で解決していかなければならない。
- ・教職員の研修については、総合教育センターとか県教育委員会が様々な層の研修をしている。
- ・その中でも今年度から、採用から二年目以降の先生や期間採用の先生が、研修する機会がなかなかないということで、「若手教員グロウアップ事業」というものを始めた。
- ・これは採用二年目から四年目ぐらいの層の先生たちに、退職した先生が直接学校に行って、マンツーマンで悩みを聞いたり、指導方法を伝授したりするもの。
- ・そういう先生たちの力量を高めることによって、最終的には子どもたちの教育に還元して子どもたちの学力を上げていこうということに取り組んでいる。
- ・また、都留文科大学とか山梨大学とかその他の大学ともいろいろな連携を模索して多方面からいろいろな教職員をサポートして行きたいと考えている。

(保護者)

- ・学力が伸びるか伸びないかというのは、だいたい小学校だと先生が好きか嫌いかということが8割くらい。

- ・先生が好きでなくても、子どもたちが勉強を好きになるような、自ら求めていくようなシステムがあればいいのではないかと感じる。

義務教育課長

- ・子どもたちが勉強をやる意欲というのは、その先生が好きだということも非常に大きな要素であって、そのためには人間性は当然として、教員の力量とともに魅力があることも非常に大事。
- ・教えることの力量を上げて行かなければならないということで、「授業力アップ養成講座」ということやっている。
- ・これは実際に先生たちに集まってもらって、専門の先生のすばらしい授業を見てもらって、力量とか魅力をアップするような取り組み。
- ・個々の先生方が研修により向上して、魅力ある教員になり、子どもたちにそれが反映できるように、さらに取り組んで行きたい。

杉原委員長

- ・全国学力・学習状況調査の元々の目的は、子どもたちの学力の実態をつかんで、学習指導の改善と教育環境の改善に生かすこと。
- ・確かにまだまだ改善しなければならないところがあるので、それについては様々な面から取り組んでいくことが必要。
- ・昨日も全県下の教頭先生を集めて、授業の改善と、それから分からないでいる子どもにきちんと目を向けて一人一人を把握して指導改善をしてくださいというお願いをした。
- ・それと皆さんにお願いしたいのは、教育環境の整備改善については是非地域の皆さん方の応援が必要であるということ。
- ・教育委員会も一生懸命取り組むが、これからもご意見ご協力をお願いしたい。

石川委員長職務代理者

- ・日本の教員は残業が多く、生徒と向き合う時間が足りないということが叫ばれている。
- ・部活動とかいじめ問題とかその他の生徒指導とかにも追われており、子どもと向き合う時間が本当に足りないというのが現状。
- ・県でも退職した先生を招いて各学校に配置したらどうかということもやっているところ。
- ・このようなことに取り組んでいき、先生が子どもたちと話し合う時間がないということ解消していきたい。

長田委員

- ・学校教育の現場でできることには限りがあると最近つくづく感じている。
- ・私はスクールカウンセラーもしており、小中学校の現場に入らせていただいているが、スクールカウンセラーが学校に行って中学生や保護者の方々と会って、そのことを担任の先生と共有したいけれども、先生方は本当に多忙で共有する時間もない。
- ・やはり先生方だけががんばらないで、専門家が地域にはたくさんいると思うので、是非そういう方々の力を学校に貸していただきたいと思う。
- ・そういう事業も今たくさん用意されていると思うので、どんどん地域の人たちが学校に入ってきてくださって、専門的な力を子どもたちに与えてくださるとありがたいと思う。
- ・また一方で、学校の先生方も自分の中で何とかしようと必死になられている方もとても多い。
- ・また、学ぶ力とか学びたいという意欲を持つためには、小学校に入学したときに「勉強って楽しいね」と思えることが一番大事。

- ・是非そのときに家庭に学習機を買ってあげたり、本人が自分のスペースを持ってそこで勉強できる環境を作ってあげていただきたい。
- ・最近、一年生になっても、自分の学習機を持っていないというお子さんが非常に多くなっている。
- ・小学生になったとき、おうちに帰ってまず机で宿題をして、明日の授業の支度をして、それから遊ぶということの習慣づけができるとうちでの学習時間の確保というものができるようになる。
- ・学童保育を利用している人も増えてきているので、できれば学童保育の先生方が子どもたちにその場で宿題をさせるというスタイルが定着していくといいと思う。
- ・学習指導をしてくださる学童保育や放課後児童クラブも増えていると聞いている。
- ・是非そういったところで、学校が終わったときにまず勉強しようという習慣、そして勉強することが楽しいという感覚が持てることから、知りたいとか、それによって何かに評価されてうれしいと思えるような気持ちに繋がっていくといいと思う。

社会教育課長

- ・社会教育課の事業で「学校応援団育成事業」というものがある。
- ・ゲストティーチャーという形で、子どもたちに専門的、体験的な学習をさせる。そんなことの他にも身近なところでも地域の方々にもお手伝いいただければ、学習効率があがる。
- ・しかし、こういった話をさせていただくと、地域の皆さんからは、学校のお手伝いをしたいのだけれども、どういう手順で手伝いをしているかが分からないという話がある。
- ・そのような時に、社会教育課の青少年教育担当に相談いただければ、教育委員会において、学校の方とそういうようなシステム作りについて相談させていただくので、是非皆さんの力を学校にいただきたい。

4 特別支援学校卒業後について

(質問・意見)

- ・支援学校を18歳で卒業すると、具体的な支援をするサポート場所が薄くなり、教育の場がなくなる。
- ・支援学校の子どもの卒業後の学びの場のことを、教育委員会の方はどのように考えているのか。

新しい学校づくり推進室長

- ・支援学校においては、教員の努力によっていろいろなサポートを行っているが、卒業後について支援学校の教員が直接支援していくということはなかなか難しい面がある。
- ・どうしても卒業後の教育の機会というものが薄くなってしまっているところをご指摘のとおりであり、もう一つ課題としては卒業後の就職先の確保といったところも課題となっている。卒業後については、私どもも研究させていただきたいと考えているが、アドバイス等あればお願いしたい。

長田委員

- ・かえで支援学校の分教室が来年度から桃花台学園という軽度の知的障害のある子どもたちの教育機関として新たに生まれることになった。
- ・これはその後の職業に就くためのトレーニングをこれまでの支援学校よりもさらに充実した形で受けられる教育機関であると認識している。
- ・その桃花台学園を卒業した後の二年間くらい短期大学のようなところがあるといいと個

人的にはずっと前から言っている。

- ・ 中度・重度の障害の方の場合には難しい問題がいろいろあるのではないかと思うが、就業に関する県全体の認知度が上がってきているし、障害者を雇用しなければならないという法律もあるが、まだまだ道はこれからだと思う。
- ・ 東部・富士五湖エリアはお母さん方がすごく元気な方が多く、自分たちでそういった施設を立ち上げた方もたくさんいらっしゃる。
- ・ こういった小さなコミュニティーを作っていくというのも一つの方法。

5 東部地域への文化施設の整備について

(質問・意見)

- ・ 県の美術館、博物館、考古博物館、文学館が無料で観覧ができるとうことだが、東部地域に関しては、県立のこういった施設が存在しない。
- ・ 主にこういった施設は国中の甲府市が中心になっていて、東部地域の場所から利用するのはたいへん時間もかかるし、苦労がある。
- ・ 子どもたちの自立を促して行くことが非常に大事だと思っているが、どうしても国中・甲府に行かないとそういうものに出会えない。
- ・ 子どもに何か刺激を与えたい、何かを見つけてもらいたいと思うのに、東部地域ではどうしてもものが足りないということを特に感じる。

学術文化財課長

- ・ 文化施設が甲府周辺に集中しているということは、確かなところではあるが、県の文化施設が東部地域に全くないということはない。教育委員会の所管ではないが、リニアの見学センターや再来年には富士山世界文化遺産センターが今のビジターセンターの隣に設立されるなど、まったく教育文化に触れる機会がないとは考えていない。しかし、美術館、博物館が遠いということは確かなこと。
- ・ 今のところは、例えば美術館の管理者と協議して、公共交通機関の利用にはなるが、秋には甲府駅から美術館まで無料のシャトルバスを出すとかいった努力はしている。
- ・ 学校現場と博物館を繋ぐような博学連携を進めていきと言いながら、なかなか地域の子どもたちが博物館や美術館に行けない状況であるが、今のところはそういった公共交通機関を使った形でのお願いになってしまうのが現状。

(質問・意見)

- ・ 先日県立文学館から学校に石川啄木に関わる展示物を置かせてもらえないかという話をもらって、置かせてもらったことがある。
- ・ このように美術館のものを移動美術館といった形で市民会館にしばらく展示するとかいうことをもし検討していただけたら、近いところで見られる。

学術文化財課長

- ・ 博学連携の一環として、直接美術館・文学館あるいは博物館に来ていただくことが難しい状況の中で、それぞれの館の学芸員が直接学校現場にお邪魔して美術館や博物館に関わることを講義させていただく「出前授業」というものがあり、学校現場から要請があれば伺っている。
- ・ 今紹介のあった文学館の他にも、美術館や他の館でもそのようなアートキットのようなものを作って学校現場に配るようなものを用意している。
- ・ 各施設でこういった学校現場で使っていただける教育キットの貸出をしているので、是非学校を通じて問い合わせさせていただくとともに活用していただきたい。

6 人口減少対策について

(質問・意見)

- ・人口減少との関係で、教育ができること、あるいは教育がしなければならないことについてどのように考えているか。
- ・先ほど、子どもたちに郷土に誇りを持たせることが大事という話があったが、このことを本当に目的意識を持って教育の中に取り込んでいくことが大切だと思う。どうやって誇りを持ってもらうのか。
- ・言葉を換えれば、卒業してから、あるいは社会人になってから、ふるさとを想ってふるさとに関わりをもってくれる人材、あるいは機会があれば戻ってくる、帰ってくる人材をどう育てるかということ。
- ・ふるさとの原体験というものが昔は黙っていても作られてきたと思うが、今はなかなか黙ってそれが作られる状況ではない。
- ・それだけに、教育の果たす役割は大きいと考えるが、この点についての考えを聞きたい。

義務教育課長

- ・郷土に誇りを持って、愛着を持って、そして今後郷土を支えて行くような人材を育てていきたいという想いを込めて、「ふるさとやまなし郷土学習推進事業」というものを行っている。
- ・これはふるさとの、山梨県の良さを凝縮された学習教材を作って、これを使って社会科の時間とかその他の時間を使って、学習に活用していくということを行っている。
- ・そして、毎年「ふるさとやまなし郷土学習コンクール」というものを開催しており、各自が自分の郷土について研究したことを応募して、年に1回発表会をするということをやっと続けてきている。
- ・今後、富士山が世界文化遺産になったこと、リニアが開通するという事等、いろいろな良い話題があるので、教材をさらに良いものにしていきながら、さらに子どもたちが郷土に愛着を持って、誇りを持って育ていけるような学習を進めていきたい。

高校教育課長

- ・高校教育課において「キャリア教育推進支援事業」というものがある。
- ・「キャリア教育推進支援事業」というのは、各学校がその特色に応じて様々な生徒の体験活動を計画していくというもの。
- ・その「特色に応じて」とは、進学を目指す生徒を考えた場合、大学でどのようなことを勉強したらいいのかが参考になることが中心。
- ・工業系・商業系・農業系の専門高校においては、企業と連携する中で、生徒が実際に地域の産業の現場に赴いて具体的な指導を受ける、あるいは企業の方が学校に来ていただいて授業をする。
- ・そのようなことを通じて、生徒がいろいろな体験活動を通じる中で、自分の将来とその地域の特色、そのようなものを結びつけながら将来を考えていくというような取り組みを積極的に行っている。
- ・やがて子どもたちが、高校時代の体験を通じて知った山梨のことを思い、インターシップでお世話になった会社への就職や、大学は他県に出るけれども、山梨に帰ってくるというようなこともある。
- ・間接的なことになるが、高校においてはそのような考え方の中で「キャリア教育推進支援事業」を展開している。

杉原委員長

- ・今から50年後には日本の働く人口は、4千万人から6千万人程度になってしまい、若い人たちは1.2人で年寄りを支えていかなければならない。
- ・そうした中で、子どもたちは外貨を稼いで自分たちの生活を成り立たせるような日本を作って行かなければならない。
- ・これはものすごく大変なことであり、そのためにも学力を絶対に付けなければならない。
- ・そしてもう一つ、グローバル化がこれからどうしても進む。
- ・生産人口が減るので、外国人労働者を日本はどうしても受け入れなければならない。そうしたときに、グローバル化が地元から進んでいく。
- ・そうしたときに自分たちが日本人であるアイデンティティー、それをしっかり持つことが絶対に必要なこと。
- ・その意味で、ふるさとを誇りに持つということは大事なこと。
- ・子どもたちを縛り付けるのではなく、子どもたちが誇りを持ってどこに行っても自分たちの国がこういう国であるということをやんと胸を張って言える、そしてその地域の人たちと一緒に共同生活ができる、協働して仕事ができる、そういったことが子どもたちに必要。
- ・そういう意味で、ふるさとに誇りを持つという取り組みというものは小中学校を通してやっけて行かなければならない。

白川委員

- ・私もふるさとを大事にしているし、なんとかそういうものを伝えていきたいと思っている。
- ・最も大事なものは、我々地域にいる大人が最も影響が大きいと思っている。
- ・子どもたち、それから成人していく者たちがふるさとに帰ってきたいだとか、ふるさとを思うこと自体は、我々がまち自体を、こんなまちはとか言っていること自体が全てマイナスになってしまっているのではないかという気がする。
- ・例えば先ほどの話のように、大雪の時の対策を皆様が自主的に考えたり、移動する博物館なんかもよいのではといったアイデアだとか、こういう一つ一つの行動がまちづくりとか地域づくりに繋がる。それが我々の役目ではないかと思う。
- ・もう一つ、私が仕事を通じて感じるのだが、親元を離れられないような若い者もいるということも事実。
- ・仕事を探すときにも、自分が通えるところでないといやだということで仕事を選択したりすることがあり、これは本当にふるさとを愛しているということに結びつかないかもしれない。
- ・こういうところが郷土愛と今の子どもたちの考え方というものの難しいところ。

阿部教育長

- ・知事の話では、人口の自然増・自然減の部分については、施策次第で上げることが可能なことがあるということ。もう一つの問題は社会減、つまり山梨県から出て行ってしまいう人であって、こちらはなかなか難しいということ。
- ・そうした中で、教育委員会は教育という観点から人口減についてどういうことができるのかというと大変難しい部分がある。
- ・ただし、いわゆる子育てのしやすさ、そういう部分については、先ほどから申し上げている「放課後子どもクラブ」や学童保育を含めて、保護者の皆さんが安心して学校に放課後の時間帯も子どもたちを預けられるような、そういうシステムを構築していく。また、待機児童の解消や質の向上に努めていく。

- ・そういうことをして行き、山梨は子育てをしやすいところだという状況にしていくことが大事。
- ・また、学力の話においても、他県から企業の方が赴任してきたとき、単身赴任の方が多かったり、市役所でこの辺でいい学校はありますかと聞かれることがあるという話を聞く。
- ・だから、学力を高めて、山梨に来ると教育もしっかりしてもらえるとという状況にすることは必要ではないかという認識は持っている。

7 広報活動について

(質問・意見)

- ・今日の資料だが、事前にHPで手に入れることができると聞いたが、どこにあるか分からない。せっかくいいものがあるのにそういう情報が手に入らない。
- ・先ほどからの説明でいろいろな県の仕組みや施策、取り組み、大変すばらしいものがたくさんあるが、今日初めて知ったというものが多々ある。
- ・広報という情報を公開する専門の組織をつくり、今こんなことをやっています、あんなことをやっていますということをサポートしていただけないか。

司会 総務課総括課長補佐

- ・教育委員会においては、総務課に広報担当という担当があり、例えば新聞記者の方にご協力いただいたり、事業の施策についてもホームページ等で公表したり、また教育事務所または学校を通じて広報をさせていただいているところ。
- ・広報といったような専門的な組織を作って、もっと教育委員会として広報を大きくしてほしいという意見をいただいたので、持ち帰って検討したい。

飯室委員

- ・現場の意見というのは本当に大事。
- ・そういう意味でこれからはPTAの方あるいは学校の関係者、父兄の方、地元の教育委員会、そして県教育委員会が一丸となっていけば一歩前に行くと思う。
- ・いろいろという訳にはいかないが、言われたことは少しでも実行して、改革改善していきたい。
- ・皆さんで提案を作ってください、それが制度になっていくことで、山梨県の学力も上がっていくし、そして安心安全もさらに強くなっていくと思う。